

【平成29年度 重点目標達成報告】

部局	重点目標	活動内容と成果	達成度	今後の取組	
		目標を実現するため行った活動・手段等、それらの達成状況や成果（できるだけ定量的に）を記入	A: 達成できた(100%以上) B: 概ね達成できた(80%以上100%未満) C: 達成できなかった(80%未満)	目標未達成の場合、今後の具体的な取組等を記入	
総務部	愛顔(えがお)つなぐえひめ国体及び愛顔(えがお)つなぐえひめ大会に向けた最終準備を進め、町内での開催競技会を円滑に運営する。	<p>○愛顔つなぐえひめ国体及び愛顔つなぐえひめ大会における町内開催競技の円滑な運営 えひめ国体には3競技合わせて延べ約1万8千人、えひめ大会には延べ約2千8百人の方々が、本町の各競技会場を訪れた。 両大会は本町を全国に紹介する絶好の機会であり、町内の小・中学生や幼稚園児・保育園児による花プランターの栽培、手づくり応援のぼり旗や手づくり歓迎パネルの作製、伊予高生によるカウントダウンボードや横断幕の作製、各種団体によるおもてなし料理の提供や売店等の出店、地域応援や学校観戦など会場での応援、ボランティアスタッフとしての支援など、オール松前でおもてなしをした町民総参加の大会となり、全国から訪れた多くの方々に本町の魅力を広く発信し、また、温かくお迎えすることができた。</p> <p>【開催内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第17回全国障害者スポーツ大会（愛顔つなぐえひめ大会 兼 第12回愛媛県障がい者スポーツ大会）リハーサル大会（5月28日（日）） 愛顔つなぐえひめ国体（第72回国民体育大会）ホッケー競技会（10月1日（日）～5日（木）） 愛顔つなぐえひめ国体（第72回国民体育大会）ライフル射撃（CP）競技会（10月2日（月）～4日（水）） 愛顔つなぐえひめ国体（第72回国民体育大会）ボクシング競技会（10月5日（木）～9日（月・祝）） 愛顔つなぐえひめ大会（第17回全国障害者スポーツ大会）卓球（サウンドテーブルテニス含む。）競技会（10月28日（土）～29日（日）） 	A		
	ホッケーを通じた国際交流事業を実施する。	<p>○松前町国際ホッケー交流事業の実施 オーストラリアニューサウスウェールズ州のクラブチーム『ブッシュレンジャーズ』を招へいし愛媛国体少年男子及び女子チーム等との交流試合（6試合）を行った。（ブッシュレンジャーズ側：役員、選手、保護者 計40名） 4月14日（金）出迎えと松山市内観光 15日（土）オープニングセレモニー、交流試合4試合、ウェルカムパーティ 16日（日）交流試合2試合</p> <p>この交流事業により、競技力の向上と異なる文化に対する理解と友好を深め、「国際交流×ホッケーのまちづくり」を推進した。</p>	A		○今後も、交流人口の拡大や地域の活性化のため、ホッケーを通じた国際交流事業を実施し、ホッケーの聖地・松前を目指し、ホッケーのまちづくりを推進する。
	愛媛大学との連携協力をに係る協定を締結する。	<p>○協定締結に向けた検討・協議 平成29年度においては、愛媛大学と連携する分野について検討・協議を行った。（検討分野）</p> <ol style="list-style-type: none"> 安全・安心なまちづくりに関すること。 医療・福祉の向上に関すること。 地域産業の振興に関すること。 計画的な自治体経営の推進に関すること。 	B		○現在検討中の連携分野での協定締結に向け、準備を進め、平成30年度内の協定締結を目指す。

【平成29年度 重点目標達成報告】

部局	重点目標	活動内容と成果	達成度	今後の取組
		目標を実現するため行った活動・手段等、それらの達成状況や成果（できるだけ定量的に）を記入	A:達成できた(100%以上) B:概ね達成できた(80%以上100%未満) C:達成できなかった(80%未満)	目標未達成の場合、今後の具体的な取組等を記入
総務部	防災士の養成や防災マップの刷新等を行い、更なる防災力の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○愛媛県防災士養成講座（10月21～22日） 12地区の自主防災組織から各1名（内訳：男性7名・女性5名）が県主催の防災士養成講座を受講。全員が資格取得試験に合格し、認証登録を完了 町が資格取得補助を行った防災士は合計145名、平均年齢は63.9歳、女性割合は26.2%となった。 ○防災士フォローアップ研修（3月21日） 町が資格取得補助を行った防災士を対象に研修会を実施（参加：61名）。松山河川国道事務所から講師を招き、浸水想定区域に係る避難計画の講演と参加者によるグループディスカッションを実施し、防災士間の意見交換、情報共有を図った。 ○松前町総合防災マップ（風水害編）作成業務（9月14日～3月20日） H28年5月に国交省が公表した想定最大規模降雨により重信川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域を示したマップを18,000部作成し、3月末に各戸配布した。残りは転入者や希望者に随時配布する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度以降も県の防災士養成講座に参加し、各自主防災組織1名程度ずつ防災士を養成予定。 ○女性の資格取得率アップと各自主防災組織内での世代交代を図る。 ○年に1回程度の開催だった防災士研修の回数を増やし、これまで以上に防災士間の情報連携を促進し、町内自主防災組織全体の意識の高揚を図る。 ○自主防災組織主催の防災講習会に赴く際に、刷新した防災マップの説明を行い、適切な利用を促す。
	町税の徴収体制を強化し、厳正・厳格な滞納処分に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○町税徴収体制の強化及び厳正・厳格な滞納処分の実行 徹底した財産調査結果に基づき、納税資力があると判断できる事案については、直ちに差押えを執行し、厳正・厳格な滞納処分を行った。また、県職員と連携し、滞納者宅の家宅捜索を行った。 【H29年度一般会計徴収率：99.19%（前年比+0.16%）】 	B	○効果的・効率的な滞納整理と、大多数の納期内納税者の視点に立った厳正・厳格な滞納処分に努める。
保健福祉部	保育所や放課後児童クラブ等の子育て関連施設について、今後の整備方針を定める。	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て関連施設整備方針の検討 【保育所】 ・二名保育所は、閉園の方針を決定 ・白鶴保育所は、整備方針を検討中 【放課後児童クラブ】 ・松前小学校放課後児童クラブ施設整備は、関係部署と協議検討中 ・岡田小学校放課後児童クラブ施設整備は、建設場所を小学校敷地内に決定し、30年度設計委託に着手 	C	<ul style="list-style-type: none"> 【保育所】 ○白鶴保育所の整備方針は、継続して検討協議する。 【放課後児童クラブ】 ○松前小学校放課後児童クラブ施設整備は、継続して協議検討する。 ○岡田小学校放課後児童クラブ施設整備は、31年度工事着手を目指す。
	生ごみ減量リサイクル事業について、モデル地区による実証事業を実施し、効果を検証する。	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル地区における生ごみ減量リサイクル事業の実施及び効果検証 東古泉地区が生ごみ減量リサイクル実証事業を実施した。参加世帯数93世帯延べ254名が、家庭から出る生ごみを分別し、資源化を実施した結果329kgの生ごみが232kgの堆肥として資源化され、可燃ごみが329kg減量した。 本事業に取り組むことにより、東古泉の住民から可燃ごみを減量するという意識が強く感じられたことから、ごみ減量の啓発効果は十分にあったものと考えられる。 	B	○平成30年9月頃まで継続して実施する予定
	松前町高齢者福祉計画（第7期（平成30年～32年）介護保険事業計画）を策定し、町における高齢者福祉、介護保険の各施策実施を定める。	<ul style="list-style-type: none"> ○松前町高齢者福祉計画の策定及び高齢者・介護保険各施策の実施 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、介護の実態と介護者支援のあり方に関する実態調査から始め、統計データ（調査結果）の分析、第6期計画の振り返りを行った。その結果を踏まえ、障がい者基本計画、健康づくり計画との連携を図りながら地域包括ケア計画として「見える化」システムを活用し、第7期における介護保険料を算出した。併せて、介護保険事業運営委員会を適宜開催し委員の方々から意見を伺い、その結果、平成30年3月に第7期計画を策定することができた。 	A	

【平成29年度 重点目標達成報告】

部局	重点目標	活動内容と成果	達成度	今後の取組
		目標を実現するため行った活動・手段等、それらの達成状況や成果（できるだけ定量的に）を記入	A: 達成できた(100%以上) B: 概ね達成できた(80%以上100%未満) C: 達成できなかった(80%未満)	目標未達成の場合、今後の具体的な取組等を記入
保健福祉部	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続できるよう、地域包括ケアシステムの構築を図る。	<p>○介護予防・日常生活支援総合事業 平成29年4月から実施。従来のサービスと同様の介護予防訪問介護及び介護予防通所介護相当分のサービスを実施した。 (利用者数：訪問型サービス 49人、通所型サービス 212人（平成30年2月末現在）)</p> <p>○生活支援サービス体制 昨年度の岡田校区に引き続き、北伊予校区及び松前校区について、第2層協議体設置に向けての準備を行った。また、町内全域を対象とした第1層協議体設置に向けての準備を行った。 ※第2層協議体：日常生活圏内（中学校区）の資源や課題等から高齢者のニーズを把握し、その支援方法を検討するためのつながり 第1層協議体：町の目指すべき地域像について検討し、実現に向けて活動するためのつながり</p> <p>○認知症施策の推進 認知症初期集中支援チーム及び認知症支援推進員の地域包括支援センター内設置に向け検討を行った。</p> <p>○在宅医療・介護連携推進 医療・介護関係者等による松前町在宅医療・介護連携推進協議会の設置に向け検討を行った。</p>	C	<p>○生活支援サービス体制 各行政区を目標とした協議体の設置を目指す。併せて、高齢者のニーズとボランティアなどの地域資源とをマッチングさせるなど、生活支援の充実を推進するため、生活支援コーディネーターを配置し、支え合い活動の創出に取り組む。また、この取組について町政懇談会を通して各校区へ普及啓発を図る。</p> <p>○下記各事業は、下記取組の具体的な実施計画を立てる。また、認知症施策の推進及び在宅医療・介護連携推進は、各取組について広報等を通して住民に周知を行う。 ・介護予防・日常生活支援総合事業 既存の介護サービス事業者によるサービスに加え、住民活動等によるサービス提供主体の多様化を図り、利用者の拡大や町独自の取組が早期に実施できるように努める。 ・認知症施策の推進 認知症に関する普及啓発を行うとともに、認知症初期集中支援チーム及び認知症支援推進員を設置し、下記の活動に取り組む、認知症の人やその家族の自立生活をサポートする。 ①認知症初期集中支援チーム 認知症が疑われる方やその家族を訪問するなど、適切な医療や介護等につなぐための初期対応を行う。 ②認知症支援推進員 認知症の方やその家族を支援する相談業務等を行う。 ・在宅医療・介護連携推進 松前町在宅医療・介護連携推進協議会を設置し、地域の医療・介護関係者等の協力を得て、在宅医療と介護サービスを一体的に提供できる仕組みづくりに努める。</p>
産業建設部	はだか麦の認知度の向上と需要の拡大を目指したPR活動に取り組む。	<p>○はだか麦認知度向上及び需要拡大に向けたPR活動を実施 ・はだか麦の美味しいおやつ・料理認定店の拡大を図り、新たに2店舗を認定した。 ・愛媛国体（ボクシング会場）及び松前町産業まつり「たわわ祭」に出店し、「はだかむぎゅ」を販売し、両イベントともに完売した。 ・「はだかむぎゅ」を2週間食べ続けて身体の変化を調査する「はだかむぎゅチャレンジ」を行い、公募に対して34名が参加した。チャレンジ終了後のアンケートにより、多くの参加者が便通改善や膨満感（満腹感）を実感したことが分かった。 ・「はだかむぎゅ」の商品化のため、たまごや及びあわしま堂と交渉を行った。この結果、たまごやではイベント時の製造及び余剰分の店舗販売を行っている。 ・はだか麦PR紙芝居の読み聞かせを二名保育所で行い、二名保育所、小富士保育所から33名が参加した。 ・上記の内容をまとめたテレビ番組3本（各5分程度）を製作、放送した。</p>	B	<p>○「はだかむぎゅ」の商品化に向け、あわしま堂との交渉を継続する。検討に当たっては、サンプルの製造、成分検査を行い、Bグルカンの含有量等を確認する。 ○引き続き、はだか麦の美味しいおやつ・料理認定店の拡大を図る。 ○松前町産業まつり「たわわ祭」等に出店し、はだか麦及び「はだかむぎゅ」のPRを図る。 ○「はだかむぎゅ」の商標登録を行う。</p>
	南黒田工業団地の条件整備を図り、今後の整備スケジュールについて検討する。	<p>○南黒田工業団地整備に向けた関係機関との協議、住民説明会の実施 ・県庁都市計画課・河川課・農政課・中予地方局との協議を8回実施 ・伊予市との協議を6回実施 ・鳥の木北団地への説明会を実施（5/21、5/23、12/1、12/19） ・地元説明会に対するの意見照会を行った。</p>	B	<p>○鳥ノ木北団地全体の意見を聞いたうえで、伊予市と同意に向けた協議を行う。なお、関連機関との協議を継続する。</p>

【平成29年度 重点目標達成報告】

部局	重点目標	活動内容と成果	達成度	今後の取組
		目標を実現するため行った活動・手段等、それらの達成状況や成果（できるだけ定量的に）を記入	A: 達成できた(100%以上) B: 概ね達成できた(80%以上100%未満) C: 達成できなかった(80%未満)	目標未達成の場合、今後の具体的な取組等を記入
産業建設部	J R車両基地・貨物駅及び北伊予駅周辺の道路整備を実施する。	○ J R車両基地・貨物駅及び北伊予駅周辺の道路整備に向けた取組の実施 ・ J R四国と施行協定を締結 ・ 関連事業工事に着手 ・ 用地買収が完了	B	○ 今年度、自由通路本体の工事着手を行う。 (平成31年10月末、工事完成予定)
	台地泉公園を整備し、新たな憩いの場を提供する。	○ 台地泉公園の整備 平成30年3月30日に工事が完了し、新たな憩いの場を提供することができた。	A	
	西古泉浄水場について、事業概要計画(スケジュール)に基づき、整備に着手する。	○ 整備進捗状況 事業概要計画(スケジュール)に基づき、「予備設計」を実施した。	B	○ 「予備設計」の成果を基に「事業評価作成」の業務委託を行う。
教育委員会	ホッケー普及事業を実施し、ホッケーによるまちづくりを推進する。	○ ホッケー体験事業の実施 町内小学校に出向き、クラブ活動・放課後児童クラブ・放課後子ども教室に時間を設け、ホッケー体験を実施した。岡小13回、松小4回、北小4回、計21回746名の児童が体験した。 ○ ホッケー教室及び中学ホッケー大会(まさきCUP)の開催 県外強豪チームを招いたホッケー教室や中学生ホッケー大会(まさきCUP)を開催し、広く町民に啓発することができた。	B	○ 関西圏域大学ホッケーチームを誘致し、交流人口の拡大と松前町ホッケー公園の稼働率向上を目指す。 ○ ホッケースポーツ少年団を立ち上げ、更なる普及促進を図る。
	松前中学校の北校舎及び南校舎の改築に取り組む。	○ 改築進捗状況 関係部署及び学校との協議により、教室の数、配列及び改築に向けたスケジュールを決定した。	B	○ 関係各課及び学校等関係機関と協議を重ね、平成30年度に実施設計を行い、平成33年度完成を目指す。
	地域活動の拠点となる西公民館について、耐震改修工事を実施する。	○ 耐震改修工事進捗状況 平成30年1月から補強及び改修工事実施中	B	○ 引き続き、補強及び改修工事を実施し、耐震改修工事を完了させる。(H30.8完了予定)
	学校給食における地場産物の活用率の向上に取り組む。	○ 活用率向上に向けた取組 町内各校の学校給食に積極的に地場産物を取り入れることで活用率の向上に取り組んだ。 【地場産物活用率】 H29: 県内産73.4% 国内産98.7% (活用率順位県内市町第2位) H28: 県内産59.2% 国内産95.2%	B	○ 学校給食に地場産物を積極的に取り入れ、活用率UPを図る。
	給食センター調理等委託業務の評価を実施する。	○ 実施状況 給食センター調理等委託業務評価をするため、児童・生徒に給食に関するアンケートを実施した。 アンケートの結果、味・量に対する満足度が高く、給食時間を楽しく過ごしていることが分かった。	B	○ 引き続き、調理委託業務の充実を図るよう検討する。